

国史跡 山野貝塚

— 縄文の景色を今に伝える、房総半島に現存する最南部の大型貝塚 —



山野貝塚航空写真(昭和54年国土地理院撮影) 白く見える部分が貝塚

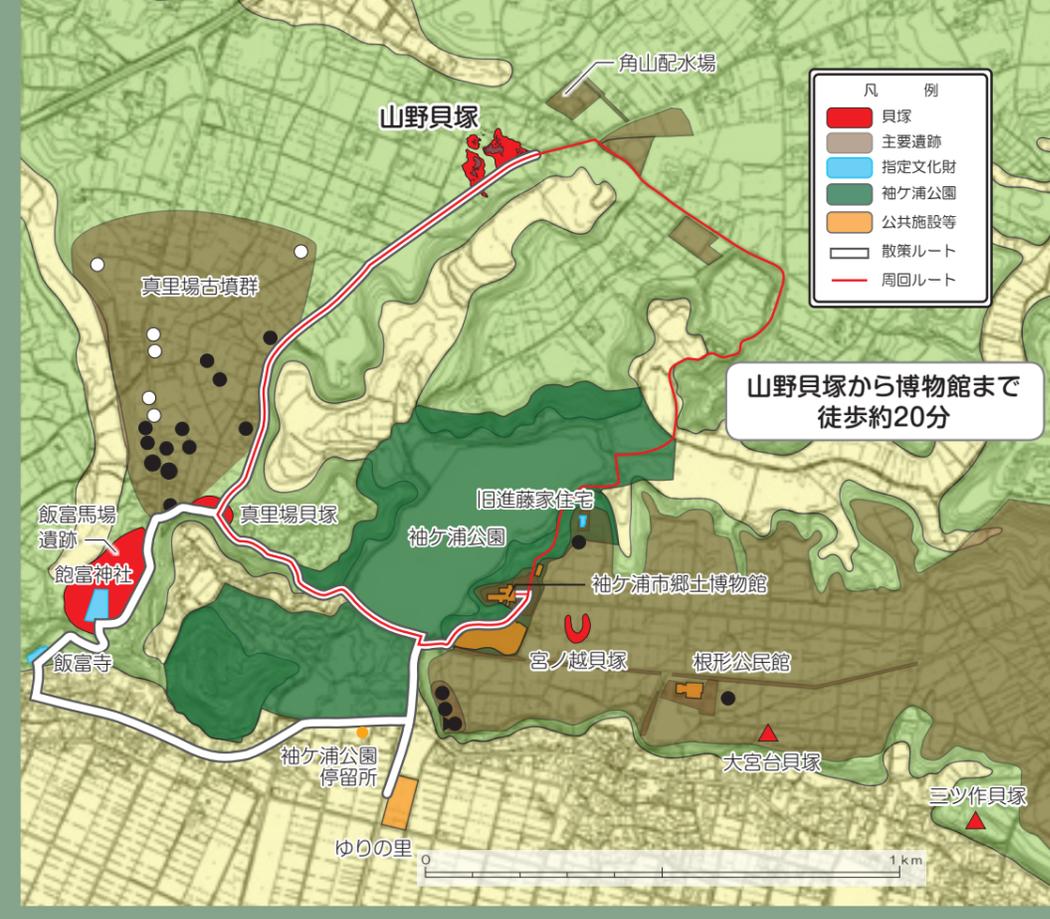


昭和48年発掘調査風景(現在の鉄塔部分の調査)

山野貝塚周辺を 散策してみよう!

散策ルート

山野貝塚から博物館まで
徒歩約20分



山野貝塚周辺には、市の歴史を伝える郷土博物館や市民の憩いの場である袖ヶ浦公園、
飽富神社をはじめとする神社仏閣などの文化財が数多く所在しています。
散策して、山野貝塚や袖ヶ浦の歴史を体感してください。



公共交通機関をご利用の方

JR袖ヶ浦駅下車→日東交通(株)

②番乗場 平川行政センターのぞみ野ターミナル行きバス乗車(土日は東京ドイツ村のぞみ野バスターミナル行き)→袖ヶ浦公園停留所下車(所要時間約12分)→袖ヶ浦公園停留所から約600mで袖ヶ浦市郷土博物館到着

車をご利用の方

袖ヶ浦市郷土博物館の駐車場をご利用ください(※山野貝塚に駐車場はありません。駐車場から徒歩20分。)

●東関東自動車道館山線 姉崎袖ヶ浦ICから約20分(約8.5km)

●アクアライン連絡道袖ヶ浦ICから約15分(約6km)

●袖ヶ浦市郷土博物館

約4分 0.3km
袖ヶ浦の歴史をわかりやすく解説しています。博物館の屋外には江戸時代後期の民家である旧進藤家住宅(市指定文化財)が移築されています。

●袖ヶ浦公園

約6分 0.5km
市民の憩いの場です。季節ごとの花々や水鳥を楽しめます。

●真里場古墳群

約10分 0.8km
20基の円墳で構成される古墳時代中～後期の群集墳です。ポコポコといくつかの高まりが見られます。

※古墳や貝塚は個人の所有地になります。立ち入らず道路から見学して下さい。

●山野貝塚

約20分 1.6km
貝塚の高まりと窪地の高低差を実感してください。一部に貝が散らばっています。

●あきとみ 飽富神社

約3分 0.2km
平安時代に編さんされた『延喜式』にその名が見られます。本殿と東照宮は市の文化財に指定されています。

●いとみし 飯富寺

約14分 1.1km
市指定有形文化財「十一面千手観音菩薩立像」が祀られています。

●ゆりの里

約9分 0.7km
地元で採れた新鮮な農畜産物の直売所です。

●袖ヶ浦市郷土博物館

縄文の景色を今に伝える山野貝塚

山野貝塚は縄文時代後・晩期（今から約4,000～2,300年前）の遺跡です。縄文時代以降、大きな土地の改変を受けていないため、縄文時代の状態を今に留めている非常に保存状態の良い遺跡です。航空写真を見ると馬のひづめのように広がる貝塚を確認できます（表紙上段写真）。また、実際に現地へ行くと、貝塚の高まりと貝塚に囲まれた窪地の高低差を実感できます。

これまで7回の発掘調査が実施され、多くの遺物が発見されましたが、いまだ発掘調査が実施されていない遺跡の大部分には多くの遺物が眠っています。

山野貝塚はまさに「縄文の景色を今に伝える」遺跡といえます。

背景写真：現在の山野貝塚

山野貝塚と袖ヶ浦市の縄文時代関係年表

（着色部分が山野貝塚の時代）

| 時期区分 | 遺跡のようす | |
|----------|-----------------------|------------------|
| 13,500年前 | 草創期 | |
| 9,500年前 | ムラはみつからない（土器と石器が見つかる） | |
| 6,000年前 | 前期 | 小さなムラが点在 |
| | 中期 | |
| | 後葉 | 大きなムラが点在し、貝塚ができる |
| 5,000年前 | 前期 | ごく一部にだけムラができる |
| | 中期 | |
| | 後葉 | |
| 4,000年前 | 前期 | 一部に大きなムラと貝塚ができる |
| | 中期 | |
| | 後葉 | |
| 3,000年前 | 前期 | 大きなムラと貝塚がつづく |
| | 中期 | |
| | 後葉 | |
| 晩期 | ムラはみつからない（土器と石器が見つかる） | |

貝塚からわかること

貝塚とは、文字どおり貝が塚状に高まった遺跡のことをいいます。貝塚からは、土器や石器のほか、通常の遺跡では失われてしまう貝や魚・動物の骨などの有機質の遺物が残ります。さらに魚のウロコのような微小な遺物が見つかることさえあります。これらの遺物を細かく整理、分析することにより縄文時代の生活や環境をよりよく知ることができます。



貝層を上から見たところ



貝層に発見したところ

貝塚のしらべ方

- ### ① 貝層発掘調査

発掘現場で、大きめの貝や骨を採取するとともに、貝層を定量的に採取します。
- ### ② 貝層水洗

フルイ目の大きさが異なるフルイを使って水洗いし、フルイごとに資料を抽出します。
- ### ③ 分類同定

乾かした資料を分類し、現在の標本と見比べながら、貝や骨の種類や部位を特定します。
- ### ④ 計数・計測

同定した資料を数えて個体数を算出したり、計測し体長を推定したりします。

房総半島に現存する最南部の大型貝塚

東京湾沿岸には縄文時代の貝塚が日本で最も多く分布し、特に東京湾東岸は世界的に見ても有数の貝塚密集地帯として知られています。

山野貝塚は東京湾東岸のほぼ中間部に所在し、房総半島に現存する大型貝塚の中では最も南に位置します。

ここで東京湾東岸の貝塚の分布をみると、北側には貝塚が数多く分布していることに対し、山野貝塚より南側には貝塚の分布が少なく、山野貝塚は南側の貝塚を知るための不可欠な遺跡となります。

このように山野貝塚は東京湾沿岸の縄文時代を考える上での重要な遺跡であり、さらに縄文時代の生活痕跡を色濃く残していることから、現状のまま後世へ引き継いでいかなければなりません。



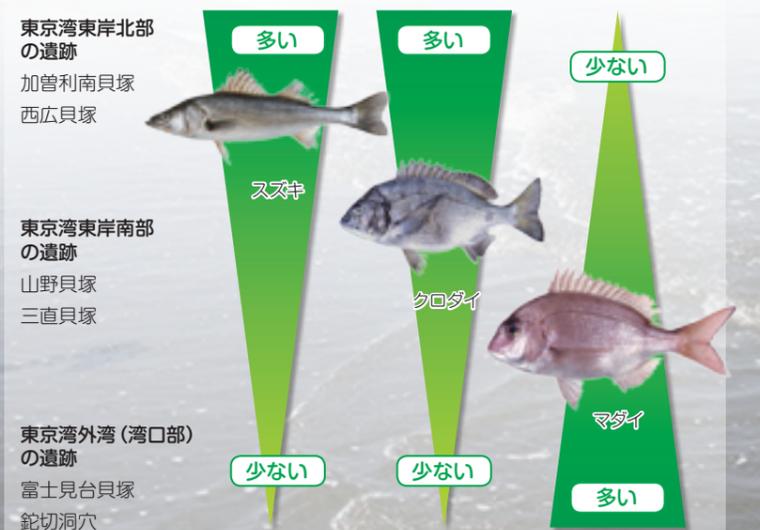
東京湾の南北をむすぶ山野貝塚

東京湾沿岸の貝塚から発見される魚の種類は、内湾周辺の遺跡では内湾域に生息するスズキ、クロダイが主となるのに対し、外湾周辺の遺跡では外湾域に生息するマダイが主となり、縄文人が遺跡近くの海域で魚を獲得していたことを示しています。

一方、山野貝塚から発見される魚の種類は、内湾域に生息するスズキ、クロダイとともに外湾域に生息するマダイが主なものとなります。このことは山野貝塚が東京湾東岸のほぼ中間部に立地する特徴を反映し、内湾、外湾の両方に生息する魚を獲得していたことを示していると考えられます。

山野貝塚での魚の獲得方法は明らかになっていませんが、内湾と外湾域の両方の魚を獲得するための技術を兼ね備えていたのかもしれない。縄文時代の漁撈を考える上でも山野貝塚は重要な遺跡と考えられます。

東京湾東岸の遺跡から発見される主な魚の種類



魚類写真：神奈川県立生命の星・地球博物館提供

背景写真：現在の盤洲干潟の波打際

山野のムラ

山野貝塚は縄文時代後期前葉～晩期中葉にかけて連続と営まれた集落です。貝塚は後期前葉～後葉までは継続的に作られますが、晩期になると作られなくなり、さらに、魚の骨の発見量が少なくなることから、

晩期になると海産物の利用が低下したと考えられます。

貝塚は南北約110m、東西約140mの範囲に広がっています。貝塚の内側は窪地となっており、貝塚の高まりとは1.2mの高低差があります。

集落の配置をみると、後期前葉は人々が居住していた住居などは貝層よりも外側に作られるのに対し、後の時期になると、居住場所や遺物の出土する位置が集落の内側にある窪地側に集約します。

① 柄鏡形住居

貝層範囲外の集落北側で発見されました。後期前葉の住居で、円形の居住部に長方形の入口がついた柄鏡形をしています。



② 幼児のお墓?

縄文時代後期前葉の遺構が集中する箇所から、横倒しの大型の深鉢が発見されました。骨は見つかりませんが、幼児骨を埋葬した棺として利用された可能性があります。

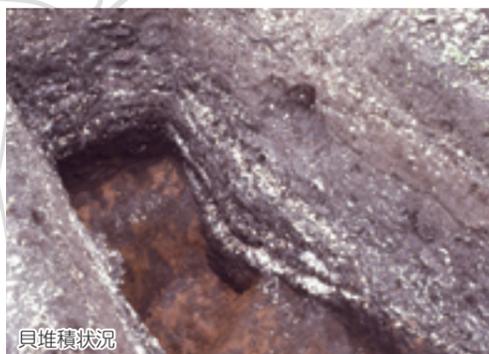


③ 山野貝塚の墓地

貝層南側の窪地との境界付近から保存状態の良い人骨が発見されました。近くからペンダントなどの副葬品と考えられる遺物が見つかることから、この付近が墓地であったと考えられます。出土した人骨を分析したところ、陸海の両産物を食べていたことがわかりました。

④ お祭りが行われた? 穴

東側の貝層中央部で発見された穴は後期前葉に使われたと考えられます。深さ1.5mの穴は破碎した貝を含む貝層により意図的に埋め戻されています。さらに、埋め戻された最上層からは灰を充填した土器が横倒しの状態で見つかりました。穴が使用されなくなった後で何らかのお祭りが行われたのかもしれない。



貝堆積状況

背景：柄鏡形住居実測図



最上段の土器出土状況



⑤ 住居に埋められた土器

東側の貝層の東端部付近で発見された後期前葉の住居から見つかりました。打ち欠いた土器を並べた上に深鉢が置かれた状態で埋められていました。



このように埋められた土器はほかに類例がなく、極めて珍しいものです。

⑥ 縄文時代の埋立て

集落北東側の緩やかな傾斜地を埋立てるようなローム層に関係すると思われる黄褐色土層が発見されました。晩期の土器が比較的多く出土していることから、晩期に人為的に埋立てられた可能性があります。

縄文時代晩期の山野貝塚は貝塚の「白」と埋め立て土の「黄」が鮮やかな色彩を見せていたことでしょう。



溝状に掘った試掘坑で発見された黄褐色土層の断面

生活や祈りを伝えるもの

山野貝塚からは、日常的に利用された道具や祭祀など非日常的に利用された道具など数多くの遺物が発見されました。土、石、貝、骨角歯と様々なものを道具の素材として利用しています。



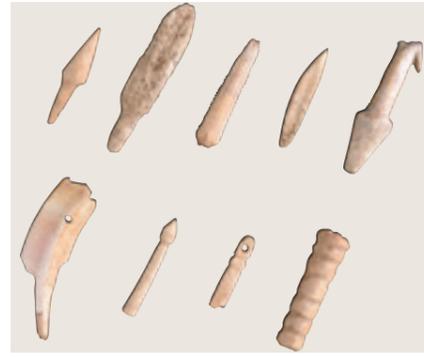
お祭りに使われたと思われる注口土器の出土状況



山野貝塚から発見された土器



土偶・土版
上段 左：後期前葉の土偶、中：山形土偶、右：ミミズク土偶
下段 左：晩期の土偶（胸部）、右：土版



骨角歯製品
上段 刺突具（右端は銚先）
下段 左端：錐、中2つ：かんざし、右端：垂飾

遠くからもたらされたもの

山野貝塚からは、遠くの地域からもたらされた遺物が発見されました。

土器は模様の描き方や使われた粘土が、東北や関西の土器と似ていること、石器と貝製品は使われた素材の採取地が現在遠隔地にあることから、山野貝塚から離れたところからもたらされたと考えられます。

これらの遺物の搬入経路や搬入方法については今後の研究課題となりますが、各地からモノが集まる山野貝塚は、東京湾東岸の中間部における拠点となる集落であったことを物語っています。



豊かな食をものがたるもの

山野貝塚からは、貝類、魚類、爬虫類、鳥類、哺乳類など数多くの動物遺体が発見されました。これらは山野貝塚に暮らした縄文人たちの食生活や自然とのかかわりについて物語るものとなります。

魚類

クロダイ、スズキ、マダイ、コチ、フグ、ニシン科が多く発見されています。東京湾東岸の北側の遺跡よりマダイが多く、少数ですがマグロ、カツオ、トビウオ科のような外洋性回遊魚類やコショウダイ、カナガシラなどの岩礁域周辺に生息する魚が見つかります。



出土した魚骨



メゴチ

ニシン科 (マイワシ)

クサフグ

外洋性回遊魚類

岩礁域周辺魚類

カツオ

コショウダイ

魚類写真： 神奈川県立生命の星・地球博物館提供

貝類

イボキサゴ、ハマグリが大部分を占めます。中でもイボキサゴは東京湾東岸の多くの貝塚で最も多く発見される直径1~2cmの小さな巻貝で、食用のほか、それ以外にも利用されたと考えられています。



イボキサゴ(現生)

現在でも小櫃川河口域に広がる盤洲干潟で大量に採取できます。



山野貝塚から出土した主要な貝類

鳥類・哺乳類

鳥類ではカモ類、哺乳類ではシカとイノシシが多く見つかるほかタヌキなどの小型の哺乳類も見つっています。これらは肉を食用としたほか、骨、角、牙を道具の素材として利用しています。



マガモ

シカ

イノシシ

写真：千葉県立中央博物館所蔵

写真：千葉県立中央博物館所蔵

タヌキ

写真：千葉県立中央博物館所蔵

シカ角、頭骨出土状況

イノシシ頭骨出土状況